

## ■ VISTA 1 ユーザーレポート

## 株式会社フジテレビジョン 様

## VISTA 1 - 22

## VAスタジオをVISTA 1で更新



株式会社フジテレビジョン  
総合技術局 制作技術センター  
制作技術部 音声  
齋藤 由佳

## VAスタジオ

2014年4月、フジテレビ本社内にある送出用スタジオ“VAスタジオ”にて、音声システムの更新を行いました。生放送番組の送出を主目的とした、副調整室とアナプースのみという、小規模なスタジオです。フジテレビ本社がお台場に移転してきてから、本年3月末日まで、弊社の看板長寿番組「笑っていいとも！」をスタジオアルタから受けて生送出してきたスタジオでもあり、影で長寿番組を地味ながら支えてきた愛すべきスタジオでしたが、偶然にも同番組の終了とスタジオ音声システム更新の時期が一致したこともあり、フジテレビの新しい一歩を踏み出すような気持ちでの更新となりました。

## VISTA

今回は、元あった他メーカーのデジタルコンソールからの更新ということで、STUDER VISTA 1を採用しました。本スタジオは、CSやBS放送でスポーツ中継の送出を行ったり、APC納品に間に合わなかったバラエティ番組のVTR送出をし

たりするなど、使用する番組はジャンルを問いません。ほとんどが生放送であるため、電源の二重化は最低条件でした。テレビスタジオの規模としては大変小さいですが、送出業務としてリモート回線を多数フェーダーに立ち上げる必要があることや、番組の最終段となるため音質の良さは絶対条件であり、さらにはサラウンド番組の送出も対応可能なこと、突発的なスタジオ送出にも対応できるようユーザーインターフェースの親しみやすさなども必要な条件でした。弊社内でも複数採用されているVISTAシリーズはこれらの条件を満たしており、新生VAスタジオでも力を発揮できそう、ということで採用することになりました。

フジテレビのVAスタジオがあるフロアには、隣接して、同じアナプースを共有しているVBスタジオという、同じく生送出を主とする副調整室のみのスタジオがあります。2年前、そのVBスタジオを新設する際にSTUDER OnAir 2500を導入した経緯もあり、両スタジオを含めて同じシステムメーカーでトータルデザインできるというのもVISTAを選択した理由のひとつです。

## 予備卓及びメインスピーカーについて

生放送では、万が一のトラブル発生時にも迅速な対応で放送を成立させるためのバックアップ

体制をある程度想定しておく必要がありますので、弊社の生放送時の慣習に倣い、VISTA 1の隣には予備卓として小型のデジタル音声卓も設けました。さらには、緊急時にエマージェンシースイッチを押すというワンアクションで、マスターや収録系につながっている本線の信号やスピーカー等のモニター環境までも一瞬で予備音声卓からの接続に切り替える機構も設け、安全・安心なシステム設計を心掛けました。

モニタースピーカーは、VBスタジオでの採用でフジテレビの新定番になったともいえるPSI-Audio A21M BlackをフロントL,C,Rに採用し、モニター棚の棚上に配置しました。また、サラウンド制作時にはリアにスピーカースタンドでPSI-Audio A17M Blackを配置するという作戦で、コンパクトなスタジオで最小限の労力でサラウンドセッティングができるようにしました。棚上の平面上にメインモニタースピーカーを置くという設置方法は新たな試みでしたが、音響条件的には厳しい部分もありましたが、音響調整を念入りに行い、PSIのフラットな特性をなるべくストレートに享受できるような環境作りを心掛けた結果、ほとんどストレスのないミキシング環境ができたと思います。今後、さまざまな番組で新生VAスタジオが活躍し、新しい歴史を生み出していただけることをうれしく思っています。